

ストップ 生活保護改悪

私たちの声を聞いて ③

(月4万9千円)だけでは生活できないため生活保護費を月3万数千円受けています。

「保護費が1万円近く下げられるのではないかと話聞きました。とんでもないことです」といいます。

「衣食のきりつめには限界があります。切りつめざるを得ないのが人づきあい、交際費です」と田中さん。

仕事をしていたときは、友人に誘われても気楽に応じることができました。いまは「薬をのんだから、あかんねん」と、毎回のようには断らざるを得ません。その繰り返し

で「友人たちとも疎遠になりました。かといって

本当のことはいえない。つながりが壊れていくのがつらい」といいます。

憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活」とは一体何でしょうか、

と田中さん。「保護基準の引き上げなくして、人間らしい生活水準への向上はありません」と話します。

同区の後藤美智子さん(49)も、うつ病とパニック障害で3年ほど前から働くことができなくなりました。1人暮らし。親族はいませんが、行き来はありません。



生活保護の改悪について語り合う、右から田中さん、後藤さん、港生活と健康を守る会の松田美由紀事務局長＝大阪市

メモ 社会保障審議会生活保護基準部会の各委員の研究結果では、若年単身者の場合のあるべき最低生活費(1級地1、住居費含む)は16万521万円とされています。現行保護基準は約13万9千円(同)。

会に命を救われ

部屋にひきこもり、昨年、蓄えも尽きて家賃が払えず追い出されそうになりました。たまたま目にしたミニコミ紙で「港生活と健康を守る会」を知りました。病状がひどく、1人では役所にいけなかったとき、同会の人が行きつけてくれて生活保護を申請。「自殺しようと思っていました。会に命を救われた」と振り返ります。

後藤さんの保護費は7万8千円ほど。一日中、家で過ごすため、電気代

などがかかります。その分、水道代とガス代を節約しようとシャワーは週1回。食費も週に4千円と決めて、1日1〜2食です。亡くなった父親の納骨のためのお金がなく、費用を毎月少しずつためています。

「安倍さんは物価を上げ、消費税も上げるといふ。なのに生活保護費を引き下げるとは。大きな矛盾を感じます」と後藤さん。「大企業向けの大型公共事業などにばく大な税金をばらまくのではなく、年金や最低賃金を上げて、みんなが普通に暮らしていけるようにすることが先ではないでしょうか」と訴えています。

(文中いづれも仮名)

(つづく)

11種類の薬服用

しかし、そううつ病やパニック障害などの精神疾患になり、働くことができなくなりました。毎日11種類の薬を服用。1人暮らしです。障害年金

心の病働けずに孤立感